

留萌市立病院卒後臨床研修

1. 臨床研修の基本理念

臨床研修は、医師が医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷または疾病に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身に付けることのできるものでなければならない。

2. 運営形態

当院は基幹型臨床研修病院である。

また、臨床研修病院群として以下の病院及び施設の協力を得て研修を実施する。

(1) 協力型臨床研修病院

- 札幌医科大学付属病院 研修内容：産婦人科
- 砂川市立病院 研修内容：精神科
- 市立旭川病院 研修内容：内科
- 旭川医科大学病院 研修内容：内科、外科、麻酔科

(2) 臨床研修協力施設

- 北海道立天売診療所 研修内容：地域医療
- 北海道立焼尻診療所 研修内容：地域医療
- 増毛町立市街診療所 研修内容：地域医療
- 東雲診療所 研修内容：地域医療

3. 管理・運営体制

院内に臨床研修管理委員会を設置し、研修プログラム及び研修計画等の企画・実施並びに評価を行う。

(1) 構成員

- ① 委員長 病院長 村松 博士
- ② 委員 副院長（プログラム責任者）、診療部長、協力型研修病院及び臨床協力施設の研修実施責任者、北海道留萌保健所長、留萌医師会長、看護部長、事務部長、その他委員長が必要と認めた者

(2) 主な役割

- ① 研修プログラムの作成に関すること
- ② 研修医の管理、採用・中断・修了に関すること

4. 留萌市立病院の概要

(1) 沿革と概要

明治5年4月に官立札幌病院留萌出張所として開設、昭和22年10月に留萌市立病院に改称、昭和42年10月に総合病院となる。平成2年に国道拡幅事業により施設の一部が移転対象となったことから移転改築事業に着手、平成13年3月に竣工し同年8月から新たに保険医療機関として指定を受ける。

北海道西北部の日本海に面した留萌二次医療圏に位置し、広大な留萌医療圏の地域センター病院として二次救急医療の中心的役割を担っており、全診療科協力のもと24時間救急体制を確保するとともに圏域で唯一、緊急手術及び出産にも対応している。

臨床研修病院としては、平成15年に管理型臨床研修病院の指定を受け卒後臨床研修を実施するほか、地域医療を担う医師を育成する医療機関として医学生実習の受け入れや実践的な臨床実習の機会を提供するなど、研修医や医学生の教育に力を入れている。

(2) 診療科

内科、神経精神科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、放射線科、病理診断科、リハビリテーション科

(3) 施設認定等

- ① 日本内科学会認定医制度教育関連病院
- ② 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ③ 日本眼科学会専門医制度研修施設
- ④ 日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ⑤ 日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ⑥ 日本循環器学会認定専門医研修関連施設
- ⑦ 日本消化器内視鏡学会指導施設
- ⑧ 日本消化管学会胃腸科指導施設
- ⑨ 日本静脈経腸栄養学会NST稼動認定施設
- ⑩ 日本がん治療認定医機構認定研修施設

(4) 基本理念

『地域に根ざした信頼される病院をめざします』

留萌市立病院は、自治体病院として留萌市を含む留萌管内の地域住民に対して、最も適切な医療を提供するという使命があり、常に地域医療の向上に努め、地域に根ざした信頼される病院となるように運営しなければならない。したがって、毎日の診療以外に、救急医療、病診・病病連携、在宅医療、疾病予防、公衆衛生活動、触診、人間ドック及び医療従事者の教育、研究に寄与するという使命を担っている。

5. プログラム責任者及び指導医

(1) プログラム責任者 副院長 高橋 文彦

(2) 各科指導責任者 (平成30年4月1日現在)

担当分野	氏名	所属	役職	指導医講習会受講
内科（消化器）	村松 博士	留萌市立病院	院長	○
内科（消化器）	野田 さや香	留萌市立病院	部長	
内科（消化器）	櫻田 晃	留萌市立病院	医長	○
内科（循環器）	高橋 文彦	留萌市立病院	副院長	○
内科（循環器）	後藤 全英	留萌市立病院	医長	
内科	澁左 隆	留萌市立病院	診療部長	○
外科	山崎 左雪	留萌市立病院	副院長	○
外科	星 智和	留萌市立病院	診療部長	○
外科	野田 雄也	留萌市立病院	部長	○
小児科	浜田 亮	留萌市立病院	医長	
麻酔科（救急部門）	川田 勝己	留萌市立病院	診療部長	○
整形外科	齋藤 憲	留萌市立病院	医長	○
眼科	阿部 友紀	留萌市立病院	医長	
脳神経外科	多田 光宏	留萌市立病院	診療部長	
産婦人科／病理診断科	札幌医科大学附属病院指導医			
精神科	砂川市立病院指導医			
内科（循環器）	市立旭川病院指導医			
内科（循環器）／外科／麻酔科	旭川医科大学病院指導医			
地域医療	東雲診療所指導医			
地域医療	長島 弘	道立焼尻診療所	所長	
地域医療	古畑 雅一	道立天売診療所	所長	
地域医療	増子 詠一	増毛町立市街診療所	所長	

研修プログラム

1. 研修プログラムの目的と特徴

研修医が医師としての第1歩を踏み出すにあたり、プライマリ・ケアを中心とした基礎的知識、技術、態度などの基本的臨床能力を身につけ、患者の心理的、社会的側面を含む全人的医療を身につけることを目的とし、併せて研修医が選択する将来のキャリア形成につながるよう配慮する。

この目的を達成するため、2年間で内科、救急（麻酔科）、地域医療を必修とし、外科、麻酔科、小児科、産婦人科及び精神科より2科目の選択必修期間を設ける。

さらに、研修医個々人が将来の専門性にかかわらず、プライマリ・ケアに主眼を置いた自由なローテーションの選択を可能とする個別選択プログラムである。

2. プログラム内容

- 1年次 /
 - ① 内科の研修期間は6ヶ月以上とし、総合内科、消化器内科、循環器内科の中から1科目2ヶ月以上として、2科目以上ローテートする。
 - ② 自由選択は、プライマリ・ケアを主眼に置き、研修医が自由に選択することができる。
 - ③ 救急（麻酔科）の研修期間は3ヶ月以上とする。
 - ④ 選択必修は、外科、麻酔科、小児科、産婦人科及び精神科の中から2科目選択することとし、研修期間はそれぞれ1ヶ月とする。

- 2年次 /
 - ① 地域医療の選択施設は、臨床研修協力施設（北海道立焼尻診療所、北海道立天売診療所増毛町立市街診療所、東雲診療所）を予定している。
 - ② 自由選択は、必修研修科目の不十分であった研修部分の補完又はプライマリ・ケアを主眼に置き研修医が自由に選択することができる。なお、選択できる診療科は次のとおりとし、研修期間は1診療科最大11か月とする。（産婦人科は札幌医科大学附属病院において実施する。）
 - 総合内科
 - 消化器内科
 - 循環器内科
 - 外科
 - 小児科
 - 整形外科
 - 産婦人科
 - 麻酔科

ローテーション例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科 (総合内科、消化器内科、循環器内科)						自由 選択	救急 (麻酔科)			選択必修	
2年次	自由選択		地域 医療	自由選択								

週間スケジュール例

	月	火	水	木	金	土・日
朝				プライマリ・ケア・ レクチャー		(日直)
午前	病棟業務 検査・処置	外 来	病棟業務 救急当番	病棟業務 救急当番	病棟業務 ドック・検診	
昼	(ランチョンセミナー)					
午後	検査・処置 病棟業務 病棟症例カン ファレンス	検査・処置 病棟業務	救急当番 病棟業務	救急当番 病棟業務	研修セミナー 病棟業務	
夜	(救外)	(救外)	(救外)	(救外)	(救外)	

■ 共通研修

- ・研修医向け I C L S 講習 4月に予定
- ・るもい研修セミナー 毎週金曜日 午後
※院内の指導医や院外講師を招いた研修セミナー
- ・プライマリ・ケア・レクチャー 毎週木曜日 7:30～8:00

■ 救急外来・宿日直の対応

- ・日中救急当番
救急外来患者をファーストタッチ
- ・宿日直
一年次 副直 (指導医とともに対応)
二年次 研修医が単独で対応 (指導医オンコール体制)
※月2～3回、希望により増やすことも可

3. 研修目標（一般目標及び行動目標）

- (1) 留萌医療圏の地域センター病院として二次救急医療の中心的役割を担う病院の特色を理解し、患者を全人的に診ることができる基本的診療能力を身につける。
- ① すべてのコアローテーションにおいて、頻度の高い疾患の診断・治療、初期救急処置など基本的診療能力を身につける。
 - ② 地域住民が求める医療ニーズを理解するとともに患者の話を良く聴くことができ、良好なコミュニケーションがとれる。
 - ③ 疾病の病態と治療内容、予後について患者本人或いは家族に適切に説明できる。
- (2) チーム医療を実践するために、他職種の機能を理解し、患者や家族に配慮した適切な医療を実践する。
- ① 自らの役割と責任を理解するとともに他の職種との良好な関係を構築し、患者中心のチーム医療を実践できる。
 - ② 患者の紹介・逆紹介及び地域医療連携の現場を経験し、患者情報を交換するために地域の団体・機関の担当者とのコミュニケーションが取れる。
- (3) 質の高い医療が提供できるよう生涯を通じて教育・学習を続ける態度と習慣を有し、後輩を指導・育成することによって自らが学ぶ姿勢を身につける。
- ① 担当患者のプレゼンテーションができる。
 - ② 臨床症例をまとめて学術集会で発表できる。
 - ③ 実習に訪れる医学生に対し、相談に乗り、指導することができる。
- (4) 地域医療に関心を持ち、健康の保持、疾病の予防から社会復帰に至る医療全般の責任を有することを自覚し、行動する。
- ① 地域医療における健診事業が担う役割を理解し実践できる。
 - ② 地域医療における退院支援の役割を理解し実践できる。
 - ③ 離島医療、在宅医療について理解し実践できる。

4. 研修実施計画

- (1) 日常よく見る疾病を、正確に診断し治療できる。
- (2) 能力に応じた人数の入院患者を担当し、指導医の指導の下に主治医業務の基本を身につける。
- (3) 外来で初診患者の予診取りおよび身体診察を実践し、診療能力を身につける。

- (4) ER型救急外来で初期救急治療を実践し、的確な初期判断、診療能力を身につける。
- ① ウォークインから救急車搬送まであらゆる疾患への緊急対応を含めた初期対応と、診断のついていない症例へファーストタッチし、そのアプローチ方法を学ぶ。
 - ② 一年次には指導医・上級医の指導の下での診療を行い、二年次には日中、夜間当直共に1人診療できるようにする。
- (5) 健康診断の結果を受診者に説明するとともに、生活習慣病に対する適切な指導と治療計画を立てる。

5. 運営体制

各診療科の臨床研修の責任者は、診療科のプログラム作成、研修実施、研修終了項目のチェック・評価表の作成を行う。

また、この統括はプログラム責任者が行う。

6. 研修の記録及び評価方法等

- (1) 自己評価と指導医評価をオンライン卒後臨床研修評価システム（EPOC）で記録管理する。
- ① 各ローテーション研修の終了前に、速やかに自己評価を入力すること。
※自己評価が入力されないと、指導医評価が入力できないため、研修終了時には入力が完了しているように注意すること。
 - ② 二年次の最後には施設に対する評価、プログラム全体に対する評価も忘れずに入力すること。
 - ③ レポート提出が必修とされている症状、疾患・病態を経験した場合は、レポートを作成し、指導医の評価を受けるとともに、事務部経営企画課研修医担当へ提出すること。
- (2) 研修管理委員会が、到達目標の達成度を確認し研修修了の認定を行う。
- (3) 臨床研修修了者には、臨床研修終了証を交付する。

研修医の処遇

区 分	内 容
身 分	留萌市立病院職員（任期付職員）
勤務時間	平 日 8：45 ～ 17：15 休憩時間 12：30 ～ 13：15（45分間） 宿 直 17：15 ～(翌)8：45
給 料	1年次 500,000円 2年次 530,000円
手 当	期末手当 給料1ヶ月分（12月に支給） 宿日直手当 1年次 10,000円／1回（副直） 2年次 50,000円／1回 退職手当 530,000円（2年間研修者のみ） 上記の他に、特殊勤務手当（呼出手当、患者搬送手当等）が支給されます
休 暇	有給休暇20日、夏季休暇3日、その他特別休暇あり
宿 舎	病院直結の1LDK（地域医療教育研究センター：家電や寝具、調理器具など家具等を完備）又は2DK、3DKの借り上げ住宅（一部自己負担あり）
保 険	北海道都市職員共済（健康保険・年金）、地方公務員災害補償保険法適用
医師賠償責任保険	（社）全国自治体病院協議会病院賠償責任保険加入（勤務医保険についても病院で包括加入いたします）なお、個人加入については任意
外部の研修活動	学会や研究会への参加が可能（職務専念義務免除） 旅費等は病院の規定により支給されます
健康管理	年2回健康診断実施
研修・研究環境	メディカルオンライン、プロシージャーズ・コンサルト、今日の臨床サポート、医学中央雑誌Web、上部・下部内視鏡トレーニングモデル、腹腔鏡視下手術トレーニングモデル ほか

■ 寄宿舍（地域医療教育研究センター）内部



募集及び選考方法

- 募集定員 / 4名
- 必要書類 / 留萌市立病院臨床研修医願書
(添付書類：健康診断書、卒業（見込）証明書、成績証明書)
- 選考方法 / 面接により、研修管理委員会が評価を行い、採用希望順位を病院長が決定します。
- 採用方法 / 医師臨床研修マッチングに参加し、その組み合わせにより採用を決定します。
 - ※1 医師国家試験不合格者は採用を取り消します。
 - ※2 マッチングで定員に満たない場合は、別途二次募集を行う予定です。
 - ※3 外国籍の方は、在留資格認定証明書（就労ビザ）の発行手続きによって、採用が遅れることがあります。
- 応募先 / 〒077-8511 北海道留萌市東雲町2丁目16番地1
留萌市立病院事務部経営企画課
(0164-49-1011 zaimu@rumoi-hp.jp)